

本資料のうち、枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料	
資料番号	KK7 本文-020-2 改1
提出年月日	2020年6月18日

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料
その他発電用原子炉の附属施設 非常用電源設備のうち
非常用発電装置
(非常用ディーゼル発電設備)

2020年6月

東京電力ホールディングス株式会社

2 非常用発電装置

2.1 非常用ディーゼル発電設備

(2) 内燃機関

イ 機関及び過給機

- ・常設
 - a. ディーゼル機関

ロ 調速装置及び非常調速装置

- a. 調速装置及び非常調速装置

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備

- ・常設
 - a. 機関付清水ポンプ

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備

1 空気だめ

- ・常設

2 空気だめの安全弁

- ・常設

3 圧縮機

- ・常設
 - a. 空気圧縮機

ホ 燃料ディタンク又はサービスタンク

- ・常設
 - a. 燃料ディタンク

(4) 燃料設備

イ ポンプ

- ・常設
 - a. 燃料移送ポンプ

ロ 容器

- ・常設
 - a. 軽油タンク（重大事故等時のみ 6, 7 号機共用）

ニ 主配管

- ・常設

(5) 発電機

イ 発電機

- ・常設

ロ 励磁装置

- ・常設

ハ 保護継電装置

ニ 原動機との連結方法

- a. 発電機

2 非常用発電装置に係る次の事項

2.1 非常用ディーゼル発電設備

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称, 種類, 出力, 回転速度, 燃料の種類及び使用量, 個数並びに取付箇所並びに過給機の種類, 出口の圧力, 回転速度, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

a. ディーゼル機関

			変 更 前			変 更 後			
名 称			ディーゼル機関			変更なし			
機 関	種 類	—	4 サイクルたて形 <input type="checkbox"/> 気筒ディーゼル機関						
	出 力	kW/個	5295 *1, *2						
	回 転 速 度*3	rpm	1000						
	燃 料	種 類	—	軽油					
		使 用 量	L/h/個	<input type="text"/>					
	個 数	—	3						
取 付 箇 所	系 統 名	—	ディーゼル機関 A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	ディーゼル機関 B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	ディーゼル機関 C 非常用ディーゼル 発電設備 7C				
	設 置 床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm				

			変更前	変更後			
機 関	取 付 箇 所	溢水防護上の 区画番号	—	—	R-1F-3	R-1F-6	R-1F-5
		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—	E. L. 0. 35m 以上	E. L. 0. 33m 以上	E. L. 0. 34m 以上
過 給 機	種 類	—	排気タービン式			変更なし	
	出 口 の 圧 力	kPa	<input type="text"/>	*1 (最大連続回転時)			
	回 転 速 度*3	rpm	<input type="text"/>	(最大連続回転数)			
	個 数	—	6 (ディーゼル機関1個につき2)				
	取 付 箇 所	—	ディーゼル機関と同じ				

注1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「(6)内燃機関に附属する煙突」の記載を削除。

注2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「発熱量」の記載を削除。

注3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「硫黄分」の記載を削除。

注4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「窒素分」の記載を削除。

注5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「灰分」の記載を削除。

注6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「排出ガス量」の記載を削除。

注7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「ばい煙量」の記載を削除。

注8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「ばい煙濃度」の記載を削除。

注9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「常用又は非常用の別」の記載を削除。

注10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書の「過給機」の「名称」の記載を削除。

注記*1 : SI 単位に換算したものである。

*2 : 公称値を示す。

- *3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。
- *4 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「6 (ディーゼル機関 1 台につき 2) 」と記載。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

a. 調速装置及び非常調速装置

			変 更 前		変 更 後
			調速装置*1	非常調速装置*2	変更なし
名	称	—	油圧式	電気—空気式	
種	類				

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「a. 調速装置」と記載。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「b. 非常調速装置」と記載。

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

a. 機関付清水ポンプ

		変更前			変更後	
名称		機関付清水ポンプ*1			変更なし	
種類	—	うず巻形*1				
容量*2	m ³ /h/個	□以上*1(□*3)				
個数	—	3 (ディーゼル機関 1 個につき 1) *4				
取付箇所	系統名	—	*1 機関付清水ポンプ A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	*1 機関付清水ポンプ B 非常用ディーゼル 発電設備 7B		*1 機関付清水ポンプ C 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設置床	—	*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm
	溢水防護上の 区画番号	—	—			
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—			

注記*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載。

*3 : 公称値を示す。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 (ディーゼル機関 1 台につき 1) 」と記載。

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

- 1 空気だめの名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変 更 前	変 更 後
名 称			空気だめ*1	変更なし
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m ³ /個		2.2 以上*2(3*3)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		3.24*4	
最 高 使 用 温 度	℃		90*2	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1200*3	
	胴 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> *5(22.0*3)	
	鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> *5(22.0*3)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200*3, *5 (鏡板の内面における長径)	
			300*3, *5 (鏡板の内面における短径の2分の1)	
	管台外径(空気入口)	mm	48.6*3, *5	
	管台厚さ(空気入口)	mm	<input type="text/"/> (5.1*3) *5	
	管台外径(空気出口)	mm	60.5*3, *5	
	管台厚さ(空気出口)	mm	<input type="text/"/> (5.5*3) *5	
	マンホール内径	mm	380.0*2, *3 (だ円形マンホール内径の長径)	
280.0*2, *3 (だ円形マンホール内径の短径)				
マンホール厚さ	mm	<input type="text/"/> (22.0*3) *5		

			変更前			変更後		
主要寸法	マンホールふた厚さ	mm	□ (36.0* ³)			変更なし		
	高さ* ⁶	mm	2904* ³ , * ⁷					
材料	胴板	—	SGV480* ⁸					
	鏡板	—	SGV480* ⁸					
	マンホールふた	—	SGV480* ²					
個数	—	6 (ディーゼル機関1個につき2)						
取付箇所	系統名	—	空気だめ A-1, A-2 非常用ディーゼル 発電設備 7A	空気だめ B-1, B-2 非常用ディーゼル 発電設備 7B	空気だめ C-1, C-2 非常用ディーゼル 発電設備 7C			
	設置床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm			
	溢水防護上の 区画番号	—	—					
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—					

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「a. 空気だめ」と記載。

*2 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*3 : 公称値を示す。

- *4 : SI 単位に換算したものである。
- *5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成 5 年 6 月 17 日付け 4 資庁第 14562 号にて認可された工事計画の IV-3-5-1-1 「非常用ディーゼル発電設備空気だめの強度計算書」による。
- *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。
- *7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3104」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SGV49」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「6 (ディーゼル機関 1 台につき 2) 」と記載。

2 空気だめの安全弁の名称，種類，吹出圧力，吹出量，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前							変更後	
名 称		空気だめの安全弁*1							変更なし	
種 類	—	非平衡型								
吹 出 圧 力	MPa	3.24*2								
吹 出 量	kg/h/個	959*2								
主 要 寸 法	呼 び 径	—*3	20A*4							
	リ フ ト	mm	1.0 以上							
	のど部の径	mm	9.6*5							
	弁座口の径	mm	15.0*5							
材 料	弁 箱	—								SCPH2
個 数		—								6 (空気だめ 1 個につき 1)
取 付 箇 所	系 統 名	—	*6 空気だめの 安全弁 R43-F070A 非常用 ディーゼル 発電設備 7A	*6 空気だめの 安全弁 R43-F071A 非常用 ディーゼル 発電設備 7A	*6 空気だめの 安全弁 R43-F070B 非常用 ディーゼル 発電設備 7B	*6 空気だめの 安全弁 R43-F071B 非常用 ディーゼル 発電設備 7B	*6 空気だめの 安全弁 R43-F070C 非常用 ディーゼル 発電設備 7C	*6 空気だめの 安全弁 R43-F071C 非常用 ディーゼル 発電設備 7C		
	設 置 床	—	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm	*7 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		

			変 更 前	変更後
取 付 箇 所	溢水防護上の 区 画 番 号	—	—	変更なし
	溢水防護上の 配慮が必要な 高 さ	—	—	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「b. 空気だめの安全弁」と記載。

*2 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成5年6月17日付け4資庁第14562号にて認可された工事計画のIV-4-3「非常用ディーゼル発電設備空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(A)」と記載。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「20」と記載。

*5 : 公称値を示す。

*6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋内（非常用ディーゼル発電設備空気だめ）」と記載。記載内容は設計図書による。

3 圧縮機の名称, 種類, 容量, 吐出圧力, 主要寸法, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

a. 空気圧縮機

			変更前			変更後		
名称			空気圧縮機*1			変更なし		
種	類	—	往復式					
	容 量	m ³ /h/個	□以上*2(□*3)					
吐 出 圧 力		MPa	□以上*2(□*3,*4)					
主 要 寸 法	吐 出 内 径	mm	25*2,*3					
	吸 込 内 径	mm	35*2,*3					
	た て	mm	1700*2,*3					
	横	mm	1030*2,*3					
	高 さ	mm	940*2,*3					
個 数		—	6 (ディーゼル機関 1 個につき 2) *5					
取 付 箇 所	系 統 名	—	空気圧縮機 *2 R43-C005A-1, A-2 非常用ディーゼル 発電設備 7A	空気圧縮機 *2 R43-C005B-1, B-2 非常用ディーゼル 発電設備 7B	空気圧縮機 *2 R43-C005C-1, C-2 非常用ディーゼル 発電設備 7C			
	設 置 床	—	原子炉建屋 *2 T. M. S. L. 23500mm	原子炉建屋 *2 T. M. S. L. 23500mm	原子炉建屋 *2 T. M. S. L. 23500mm			
	溢水防護上の 区画番号	—	—					
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—					

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機*2	変更なし
	出 力	kW/個	15*2, *3	
	個 数	—	6 (圧縮機 1 個につき 1) *2	
	取 付 箇 所	—	圧縮機と同じ*2	

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「c. 空気圧縮機」と記載。

*2 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*3 : 公称値を示す。

*4 : SI 単位に換算したものである。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「6 (ディーゼル機関 1 台につき 2) 」と記載。

ホ 燃料ディタンク又はサービスタンクの名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

a. 燃料ディタンク

		変更前 ^{*1}	変更後	
名 称		燃料ディタンク	変更なし	
種 類	—	たて置円筒形		
容 量	m ³ /個	12.6 以上 (18 ^{*2})		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度	℃	50		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		2800 ^{*2}
	胴 板 厚 さ	mm		9 ^{*2}
	鏡 板 厚 さ	mm		9 ^{*2}
	鏡板の形状に係る寸法	mm		2800 ^{*2} (鏡板の内面における長径)
				700 ^{*2} (鏡板の内面における短径の2分の1)
	管台外径 (燃料入口)	mm		60.5 ^{*2}
	管台厚さ (燃料入口)	mm		5.5 ^{*2}
	管台外径 (燃料出口)	mm		60.5 ^{*2}
	管台厚さ (燃料出口)	mm		5.5 ^{*2}
	マンホール内径	mm	500.0 ^{*2}	
マンホール厚さ	mm	9.0 ^{*2}		
マンホールふた厚さ	mm	12.0 ^{*2}		
高 さ	mm	3678 ^{*2}		

			変 更 前*1			変 更 後		
材 料	胴	板	—	SS400			変更なし	
	鏡	板	—	SS400				
	マンホールふた		—	SS400				
個	数	—	3 (ディーゼル機関 1 個につき 1) *3					
取 付 箇 所	系	統	名	—	燃料ディタンク A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	燃料ディタンク B 非常用ディーゼル 発電設備 7B		燃料ディタンク C 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設	置	床	—	原子炉建屋 T. M. S. L. 23500mm	原子炉建屋 T. M. S. L. 23500mm		原子炉建屋 T. M. S. L. 23500mm
	溢	水	防	護	上	の		—
	区	画	番	号	—	—		
	溢	水	防	護	上	の		—
	配	慮	が	必	要	な		高
			さ	—	—			

注記*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料貯蔵量 (ディーゼル機関 1 台につき) 燃料ディタンク : 18m³ (定格運転 8 時間分)」と記載。記載内容は設計図書による。

*2 : 公称値を示す。

*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 (ディーゼル機関 1 台につき 1)」と記載。

(4) 燃料設備に係る次の事項

イ ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

a. 燃料移送ポンプ

			変更前	変更後		
名 称			—	燃料移送ポンプ*1		
種 類	—	スクリュウ式				
容 量	m ³ /h/個	□以上 (□*2)				
吐 出 圧 力	MPa	□以上 (□*2)				
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.98				
最 高 使 用 温 度	℃	66				
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm		65*2		
	吐 出 内 径	mm		50*2		
	た て	mm		275*2		
	横	mm		490*2		
	高 さ	mm		135*2		
材 料	ケ ー シ ン グ	—		SC450		
個 数	—	3 (ディーゼル機関 1 個につき 1)				
取 付 箇 所	系 統 名	—		燃料移送ポンプ A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	燃料移送ポンプ B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	燃料移送ポンプ C 非常用ディーゼル 発電設備 7C
	設 置 床	—		屋外 T. M. S. L. 12000mm	屋外 T. M. S. L. 12000mm	屋外 T. M. S. L. 12000mm
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	屋外	屋外	屋外	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	E. L. 0. 49m 以上	E. L. 0. 48m 以上	E. L. 0. 49m 以上	

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	—	誘導電動機
	出 力	kW/個		2.2*2
	個 数	—		3 (ポンプ 1 個につき 1)
	取 付 箇 所	—		ポンプと同じ

注記*1 : 本設備は既存の設備である。

*2 : 公称値を示す。

ロ 容器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

a. 軽油タンク (重大事故等時のみ 6, 7 号機共用)

			変 更 前	変 更 後	
名 称			—	*1 軽油タンク (重大事故等時のみ 6, 7 号機共用)	
				(A)	(B)
種 類	—	たて置円筒形			
容 量	kL/個	□以上(565* ²)			
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭			
最 高 使 用 温 度	℃	66			
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	9800* ²		
	側 板 厚 さ	mm	□(□* ²)		
	底 板 厚 さ	mm	□(□* ²)		
	屋 根 板 厚 さ	mm	□(□* ²)		
	管 台 外 径 (液 出 口)	mm	76.3* ²		
	管 台 厚 さ (液 出 口)	mm	□(7* ²)	□(□* ²)	
	側 マンホール 外 径	mm	712* ²	711.2* ²	
	側 マンホール 厚 さ	mm	□(□* ²)		
	側 マンホール ふた 厚 さ	mm	40* ²	□(□* ²)	
	高 さ	mm	9500* ²		
材 料	側 板	—	□		
	底 板	—	□		
	屋 根 板	—	□		
	マンホール ふた	—	□		
個 数	—	2* ³			
取 付 箇 所	系 統 名	—	軽油タンク A 非常用ディーゼル 発電設備 7A, 7C	軽油タンク B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	
	設 置 床	—	屋外 T. M. S. L. 12000mm		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

注記*1 : 非常用電源設備のうち非常用発電装置のうち代替交流電源設備, 緊急時対策所代替電源設備及び監視測定設備用電源設備並びに補機駆動用燃料設備のうち燃料設備と兼用。

*2 : 公称値を示す。

*3 : 非常用電源設備のうち非常用発電装置のうち代替交流電源設備, 緊急時対策所代替電源設備及び監視測定設備用電源設備並びに補機駆動用燃料設備のうち燃料設備として使用する場合は, 軽油タンク (6号機設備, 重大事故等時のみ6,7号機共用) を含めて個数1(予備3)とする。

ニ 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し，可搬型の場合は，個数及び取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
非常用ディーゼル発電設備 燃料油系	—					非常用ディーゼル発電設備 燃料油系	*1 軽油タンク ～ 燃料移送ポンプ	0.10	66	76.3*2	7.0*2	STPT410
							燃料移送ポンプ ～ 燃料ディタンク			76.3*2	□ (7.0*2)	STPT410
							燃料移送ポンプ ～ 燃料ディタンク			76.3*2	5.2*2	STPT410
						非常用ディーゼル発電設備 燃料油系	—	非常用ディーゼル発電設備 燃料油系	燃料移送ポンプ ～ 燃料ディタンク	60.5*2	5.5*2	STPT410
									燃料移送ポンプ ～ 燃料ディタンク	60.5*2	5.5*2	SUS304TP

注記*1 : 本設備は既存の設備である。

*2 : 公称値を示す。

(5) 発電機に係る次の事項

イ 発電機の名称、種類、容量、主要寸法、力率、電圧、相、周波数、回転速度、結線法、冷却方法、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前			変更後				
名称			発電機			変更なし				
種類	—		同期発電機							
容量	kVA/個		6250							
主要寸法	た	て	mm		4365*1, *2					
	横		mm		4260*1, *2					
	高	さ		mm					2451*1, *2	
力率	—		0.8							
電圧	V		6900							
相	—		3							
周波数	Hz		50							
回転速度*3	rpm		1000							
結線法	—		星形							
冷却方法*4	—		空気冷却							
個数	—		3 (ディーゼル機関1個につき1) *5							
取付箇所	系統名	—		*1 発電機 7A 非常用ディーゼル 発電設備 7A					*1 発電機 7B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	
	設置床	—		*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		*1 原子炉建屋 T. M. S. L. 12300mm		

			変 更 前	変 更 後		
取 付 箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	R-1F-3	R-1F-6	R-1F-5
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—	EL0. 35m 以上	EL0. 33m 以上	EL0. 34m 以上

注記*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

*2 : 公称値を示す。

*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却法」と記載。

*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3 (ディーゼル機関 1 台につき 1) 」と記載。

ロ 励磁装置の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前			変更後		
名称		励磁装置			変更なし		
種類	—	静止形自励式					
容量	kW/個	30					
個数	—	3（発電機1個につき1）*1					
取付箇所	系統名	*2 励磁装置 7A 非常用ディーゼル 発電設備 7A	*2 励磁装置 7B 非常用ディーゼル 発電設備 7B	*2 励磁装置 7C 非常用ディーゼル 発電設備 7C	変更なし		
	設置床	*2 原子炉建屋 T. M. S. L. 19700mm	*2 原子炉建屋 T. M. S. L. 19700mm	*2 原子炉建屋 T. M. S. L. 19700mm			
	溢水防護上の 区画番号	—			R-2F-9 上	R-2F-11	R-2F-10 上
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—				EL0.96m 以上	

注：記載の適正化を行う。既工事計画書の「電圧」の記載を削除。

注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3（**発電機**1台につき1）」と記載。

*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ 保護継電装置の名称及び種類

名 称		変 更 前	変 更 後
種 類*	自 動 遮 断 用	保護継電装置	変更なし
		発電機比率差動継電器	
		発電機逆電力継電器	
	警 報 用	発電機過電流継電器	
		発電機地絡継電器	
		発電機界磁地絡継電器	
	発電機過電圧継電器		

注記*：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。

ニ 原動機との連結方法

a. 発電機

	変 更 前	変 更 後
原 動 機 と の 連 結 方 法	機関直結	変更なし